

# 特許協力条約

PCT

国際調査報告

(法8条、法施行規則第40、41条)  
〔PCT18条、PCT規則43、44〕

|                               |   |                           |
|-------------------------------|---|---------------------------|
| 出願人又は代理人<br>の書類記号 PCT18032ZZ  | 今後の手続については、様式PCT/ISA/220<br>及び下記5を参照すること。 |                           |
| 国際出願番号<br>PCT/J P 2018/021901 | 国際出願日<br>(日.月.年) 07.06.2018               | 優先日<br>(日.月.年) 08.06.2017 |
| 出願人(氏名又は名称)<br>国立大学法人宮崎大学     |   |                           |

国際調査機関が作成したこの国際調査報告を法施行規則第41条(PCT18条)の規定に従い出願人に送付する。  
この写しは国際事務局にも送付される。

この国際調査報告は、全部で 4 ページである。

この国際調査報告に引用された先行技術文献の写しも添付されている。

## 1. 国際調査報告の基礎

a. 言語に関し、この国際調査は以下のものに基づき行った。

出願時の言語による国際出願

出願時の言語から国際調査のための言語である \_\_\_\_\_ 語に翻訳された、  
この国際出願の翻訳文(PCT規則12.3(a)及び23.1(b))

b.  この国際調査報告は、PCT規則91の規定により国際調査機関が許可した又は国際調査機関に通知された明らかな誤りの訂正を考慮して作成した(PCT規則43.6の2(a))。

c.  この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでいる(第I欄参照)。

2.  請求の範囲の一部の調査ができない(第II欄参照)。

3.  発明の単一性が欠如している(第III欄参照)。

4. 発明の名称は  出願人が提出したものを承認する。

次に示すように国際調査機関が作成した。  
\_\_\_\_\_

5. 要約は  出願人が提出したものを承認する。

第IV欄に示されているように、法施行規則第47条第1項(PCT規則38.2)の規定により国際調査機関が作成した。出願人は、この国際調査報告の発送の日から1月以内にこの国際調査機関に意見を提出することができる。

## 6. 図面に関して

a. 要約とともに公表される図は、

第 1 図とする。  出願人が示したとおりである。

出願人は図を示さなかったため、国際調査機関が選択した。

本図は発明の特徴を一層よく表しているため、国際調査機関が選択した。

b.  要約とともに公表される図はない。

## 第 I 欄 ヌクレオチド又はアミノ酸配列 (第 1 ページの 1. c の続き)

1. この国際出願で開示されたヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下の配列表に基づき国際調査を行った。
- a.  出願時における国際出願の一部を構成する配列表
    - 附属書C/ST.25テキストファイル形式
    - 紙形式又はイメージファイル形式
  - b.  国際出願とともに、PCT規則13の3.1(a)に基づき国際調査のためにのみ提出された、附属書C/ST.25テキストファイル形式の配列表
  - c.  国際出願日後に、国際調査のためにのみ提出された配列表
    - 附属書C/ST.25テキストファイル形式(PCT規則13の3.1(a))
    - 紙形式又はイメージファイル形式(PCT規則13の3.1(b)及びPCT実施細則第713号)
2.  さらに、複数の版の配列表又は配列表の写しが提出され、変更後の配列表又は追加の写しに記載された情報が、出願時における配列表と同一である旨、又は出願時における国際出願の開示の範囲を超えない旨の陳述書の提出があった。
3. 補足意見：

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int.Cl. G01N33/574(2006.01)i, G01N33/53(2006.01)i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int.Cl. G01N33/574, G01N33/53

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

|             |            |
|-------------|------------|
| 日本国実用新案公報   | 1922-1996年 |
| 日本国公開実用新案公報 | 1971-2018年 |
| 日本国実用新案登録公報 | 1996-2018年 |
| 日本国登録実用新案公報 | 1994-2018年 |

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

JSTPlus/JMEDPlus/JST7580 (JDreamIII), CPlus/MEDLINE/BIOSIS (STN)

C. 関連すると認められる文献

| 引用文献の<br>カテゴリー* | 引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示   | 関連する<br>請求項の番号 |
|-----------------|---|----------------|
| A               | JP 2015-105951 A (コリア ベーシック サイエンス インスティテュート) 2015.06.08, [要約] [請求項7] & KR 10-2015-0061816 A   | 1-12           |
| A               | JP 2016-505137 A (シュピーンゴテック ゲゼルシャフト ミット ベシュレンクテル ハフツング) 2016.02.18, [請求項6] [請求項12] [請求項22] & US 2015/0346207 A1(Claim26, 37, 47) & WO 2014/108397 A1 & EP 2943792 A1 & CN 104937419 A | 1-12           |

C欄の続きにも文献が列挙されている。

パテントファミリーに関する別紙を参照。

\* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの  
 「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの  
 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)  
 「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献  
 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献  
 「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの  
 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの  
 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの  
 「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

17.08.2018

国際調査報告の発送日

04.09.2018

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)  
 郵便番号100-8915  
 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

三木 隆

2 J

3312

電話番号 03-3581-1101 内線 3252

| C (続き) . 関連すると認められる文献 |   |                |
|-----------------------|---|----------------|
| 引用文献の<br>カテゴリー*       | 引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示   | 関連する<br>請求項の番号 |
| A                     | US 2015/0147765 A1 (KOREA BASIC SCIENCE INSTITUTE) 2015.05.28,<br>[0064] [0065] & KR 10-2015-0062915 A  | 1-12           |
| A                     | US 2010/0008935 A1 (FRAUNHOFER GESELLSCHAFT FUR ANGEWANDTE)<br>2010.01.14, [0042] Table 2 (Seq ID No 1<br>1) & WO 2008/022806 A2 & EP 1892303 A1 & EP 2057281 A2  | 1-12           |
| A                     | 北端宏規, 生化学的検査 [1] B. 酵素関係 (アインザイムを含む)<br>アンジオテンシン変換酵素 (ACE), 日本臨床, 2004.11.28,<br>Vol.62 増刊号 11, Page.499-501, 1. 概説   | 1-12           |
| A                     | MUNOZ Miguel, The Substance P/neurokinin-1 receptor system in<br>lung cancer: Focus on the antitumor action of neurokinin-1<br>receptor antagonist, Peptides, 2012.12, Vol.38 No.2,<br>Page.318-325, Abstract, Introduction | 1-12           |
| A                     | CHAN D, Bradykinin antagonist dimer, CU201, inhibits the growth<br>of human lung cancer cell lines by a "biased agonist" mechanism,<br>Proc Natl Acad Sci USA, 2002.04.02, Vol.99 No.7, Page.4608-4613,<br>Abstract         | 1-12           |
| A                     | 小代正隆, 悪性腫瘍における血中 Fibrinopeptide A (FPA)<br>Fibrinopeptide B $\beta$ 15-42 (FPB $\beta$ ), Factor XII および Prekallikrein<br>の動態, 鹿児島大学医学雑誌, 1988.06, Vol.40 No.1, Page.17-24,<br>緒言   | 1-12           |